



「 のどかな春の風景 」

第34号

各施設ホームページには、法人ホームページからアクセスしてください。

<http://www11.ocn.ne.jp/~hakukou>

各施設のホームページにメールボックスがあります。ご意見、ご感想をお寄せください。

平成 26 年 6 月 30 日 社会福祉法人 薄光会 広報委員会発行

本部、太陽のしずく ケアホーム COCO	〒299-1607	千葉県富津市湊 1070-3	☎ 0439-67-3711
豊岡光生園	〒299-1742	千葉県富津市豊岡 3535-1	☎ 0439-68-1711
相談支援センター天羽			☎ 0439-68-1833
三芳光陽園	〒294-0825	千葉県南房総市上堀 280	☎ 0470-36-3211
鴨川ひかり学園	〒299-2854	千葉県鴨川市代 1297	☎ 04-7099-3311
ひなたホームズ			
湊ひかり学園	〒299-1607	千葉県富津市湊 934-18	☎ 0439-70-6551

# 風と語ろう



『十年越しで完了した豊岡光生園増改修工事』

―増改修工事に向けての土台作り―

約十年かけて行われた豊岡光生園のリニューアル計画は、薄光会にとって大きなプロジェクトでありました。

増改修工事自体の具体的素案が理事会に出されたのは平成二十二年でしたが、それまでは、地道にこのプロジェクトのための準備、土台作りに知恵を絞り、そして、いくつかの課題を乗り越えようと、こつこつ、がっがつ、じたばたと七転八倒していたような気がします。

思い返せば、このプロジェクトが動き始めたのは、平成十六年に湊ひかり学園がオープンした直後、「次は豊岡光生園のリニューアルだね。薄光会の最初の希望の灯り、豊岡光生園の利用者のために」と話が持ち上がったときでした。豊岡光生園は、昭和五十五年の開園以来四半世紀が経ち、職員たちの環境維持の努力にも関わらず、配管や諸設備が老朽化して、住みにくさが限界を超えていたのです。

そして意識せずにはいかなかったのは時代の波。集団生活の体制から利用者一人ひとりを支えていく個別支援体制へ。老朽化した建物・設備と旧来の生活と支援では人も集まらないという危機感がありました。



それから、なによりも障害者自立支援法への移行問題。それらがなймаせとなつて、どのようにリニューアルすべきかが検討されたのです。

最初の改修案は敷地の東、ダム側に浴室を造り、居室の新基準を確保しようというものでした。しかし、これは



あまり変わり映えがせず、旧来の生活を改善できないことに気づいたのです。全面建て替えか、躯体を残しての改修か。移転新築か、RC五階建か、木造連結小舎制か、いずれも資金の問題、旧建物の廃棄、工事中の住まいの問題と、難問だらけでした。

この間、北海道、東京、神奈川へと、設計士も一緒に視察の旅にも出かけました。そしてとうとう現躯体をできる限りのそのまま活かして、七つのユニットと管理部を整備する増改修案に結実したのです。



難問はまだありました。敷地や建物の面積から考えて、居室の新基準を満たすためには、入所定員の削減が必要でした。障害者自立支援法への移行を、早すぎず遅れすぎない平成二十一年と見定めました。移行の波に乗りながらの改革・展開に



賭けたのです。時代の要請でもあったケアホームの創設は、入所定員削減課題も見据えて、平成十八年から手をつけ、平成二十年度末までに、六棟体制としました。

豊岡光生園日中活動の拠点となるT&D上郷（作業棟）の建築とケアホームに転居される利用者の日中活動の場の保障として、賃貸による生活介護事業所「太陽のしずく」を平成二十一年四月に開きました。そして、本丸の豊岡光生園増改修工事の開始。

今回の増改修工事のことをよく振り返って考えるのですが、時代に取り残される危機感と親御さんたちの明るい希望を残したいという思いと職員たちの勢いがプロジェクトチームの背をぐいぐい押し出したからこそ、この一大リニューアル計画が成功したのではないかと強く感じるのです。

（豊岡光生園施設長 多田浩司）



「虹がかかって広がる世界」

「一緒に種まこう！」

ステキな笑顔で声をかけてくれた児童に、「うふふつ」と最高のスマイルを見せる友子さん。さあ、ここでも「はじめの一步」スタートです。

「人と地域が出会う場所」がキャッチコピーの道の駅、鴨川オーシャンパークの近くに学園の新たな活動拠点（ネモレド畑）があります。

職員が以前、田んぼとして使用していた土地を畑として借り、今年度からは「レイドバックガーデン」という野菜や植物を育てる作業班で活動を始めました。コンクールで入賞した案山子を設置し、畑作業以外にも楽しめる場所を目指して奮闘中です。

今回、そのネモレド畑の近くにある「エビヤカフェ」さん（コーヒーフィルター回収でお世話になってます）のつながりから、太海小学校の三年生とジャンボカボチャを育てる交流企画が実現しました。

まずは「種まき」から。太海小で行なわれた交流会で大活躍したのは、小原さんです。児童が用意してくれるポットに次々と土を入れ、それを熱心に運んでくれました。この日は朝からとてもニコニコ顔で、太海小に到着後、一番乗りで校舎に入って行く姿からも、小原さんの気持ちが伝わってきます。



この交流機会を本当に楽しみにしていたのかも少しありません。

また、ネモレド畑を管理する中心メンバーの飯塚さんは、種まきを終えたポットに水をあげる作業を担当。児童たちがポットを運んでくるペースに合わせて、そっと水やりをする優しい姿は、とても印象的でした。

学園で種まき経験豊富な新川さんは、軽快に種をうずめていく手つきを存分に披露。児童たちの熱い眼差しに少し照れながらも「私は種まき先生よ！」とまんざらでもない様子です。



後日、だいぶ大きくなった苗を畑に植え付ける作業を行いました。児童とペアになり、穴を掘るところから行灯と敷きワラの設置まで、この日も笑顔あふれる楽しい交流時間でした。

順調に育てば、九月中旬には収穫予定。たくさん大きなカボチャができることを願います。



苗植えを行った翌日、ネモレド畑の上空に大きな虹が架かりました。この虹は、カボチャの成長と交流企画の明るい未来を知らせる「吉兆」かもしれませんね。

（山野 根本）



「みんなの里で願掛けもしてきたぞ〜」



「カボチャ

大きくなってね！」



# 園だより

## ぼくの「検品」あなたの「検品」

ユニットでの暮らしが始まって八か月が経ち、三月には全ての増改修工事が終了しました。建物が新しくなったこともあり、新しい家具を購入して、やっと各ユニットの利用者さんに届けられることになりました。

はじめに椅子が届きました。さっそく、各ユニットへ運び入れようとしたところ、『私は椅子の搬入など聞いていない』

と、息遣い荒く、大きく目を見開いた中村さんの恒例の検品確認が入りました。中村さんは、自分の知らない間に周りが変わってしまつことが納得いかないのです。

その日は幸いにも、いろいろな都合で椅子の搬入は延期となりました。椅子は別の場所へ一旦保管されましたが、それでは気が収まらない中村さん。『やっきの椅子は？』と言わんばかりに職員に食って掛かってきました。そこで、保管場所を



伝えて椅子を確認してもらいました。少し納得されたようです。

数日後、改めて椅子の搬入となりましたが、検品の鬼、中村さんは見逃しません。

中村さんに確認なしで貼った目印の名前のタグを見つめるや否や、あつという間に外

してしまいました。再度、一緒にタグを付けて搬入は無事終了しました。中村さんから、『昔から

言っているだろう。新しい物の入替えは職員だけで進めるなよ。俺たちへの説明を怠るな』と、忘れていた大切なことを改めて教えて頂きました。

おそらく職員は、リニューアルした豊岡光生園の建物に、新しい物たちを取りそろえようとして周りが見えなくなっていたのだと思います。

「新しいことの喜びと、安定した生活の「作法」を融合させるのはむずかしいなあ」

入職十年目の小林のつぶやきです

〔小林〕



朝食

## 「新職員紹介」

初めまして、今年の四月から豊岡光生園で勤務しています、生稲祐理です。

毎日利用者様の笑顔に包まれて癒される日々を送っています。

最近、西山さんの絵の素晴らしさに驚かされました。色彩豊かで、特に動物の絵は今にもキャンパスから飛び出してくるようです。私も絵を描くことが好きなので、自分の趣味を活かしながら西山さんと「コミュニケーション」を図っていけたら良いと考えています。

利用者様とのふれあいを大切に、信頼関係を築きながら楽しく過ごしていきたいと思っています。よろしく願います。



# 太陽のしずく

『幾野 (SUGO) RIKO さま』

今年度四月より太陽のしずくの施設長に就任致しました幾野と申します。私は性格が大雑把なほうで、血液型もO型です。

しかし、どうも仕事のほうは細かく、あまり自覚はしていないのですが、いろいろと整っていないところも気持ちが悪く落ち着かないようで、いろいろなことを整えてまいります。

よく前任者からは

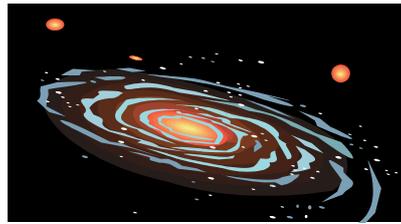
「お前は整えすぎる。混沌とした中にごそ大きなうねりやエネルギーがある。」

と助言を頂いたものです。それを実践に移し整えることを控えること今度は

「散らかりすぎている。全然整理されていない。」とまた新たな助言をいただき、ちょうどいい塩梅を模索しながら今日に至っています。

このような自分が施設長になり、職員が口をそろえて「大丈夫か?」と心配している様子に、今まで以上に

しっかりとこなすべく、奮起している自分が



いることは、ひとつの成果かもしれないと感じています。

まだまだ世間知らずな私ですが、どうぞ今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

## 正義の味方「OOMON」

太陽のしずくに通うようになって、三年目になる脩仁さん。少し前から、職員が利用者さんにちょっとしたお出で、度が過ぎるおふざけに困っているのを見ると「やめろー」と飛んできて前に立ちはだかってくるようになります。本人は助けてるつもりでしょうが、周りはその必死な姿に笑ってしまうのです。しかし、今まで他の人に興味がありません。脩仁さんにとっては大きな一歩のように感じます。

こんなことがあってから、少しずつ利用者さんに対しても、サンダルで入ってはいけない場所でサンダルを履いてる人を見ると

「ダメダメ」

と脱がしに行ったり、



清明

ミーティングが始まること「修さん起きてください」

と起こしている姿までみられるようになりました。少しずつですが、話に耳を傾けてくれて、他人の気持ちを分かろうと葛藤している様子が感じられて三年前の脩仁さんを知っている私にとっては、とても嬉しい姿です。

「ここ最近は何もかも」

のTシャツをよく着てきませんが、くまもんが脩仁さんに見えてしまうほどソックリで、Tシャツの絵を指さして「くまもん」と。

「じゃあこれは?」と脩仁さんを指さして聞くと、

「なおもん」

と自分で言っています。

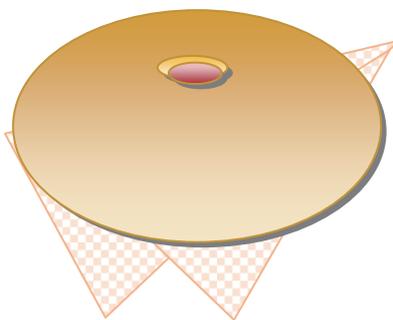
(一度職員がそっくりだから)「なおもん」だねと言っていたら、自分から言うようになってしまいました(た)

そんなおちゃめな脩仁さんのこれからの成長が本当に楽しみでした。

次はどこに出発するのか

正義の味方「なおもん」。

小野 紗代子



# COCO de COCO



『あ、うっけだよ』

「COCO」でみんなと一緒に暮らし始めて、七年半。始めたころに抱いていた燃えるような熱い思いは、多々あるしがらみの中で燻びっている今日この頃。

それでも、みんなとの暮らしは、私にとって、何ものにも変え難い栄養剤のようなもので、食卓をみなで囲み、おかずの取りあいに神経をとがらせたり、お風呂では、どっちが長く入っていられるか、赤い顔して我慢くらべをしたり、リビングのテレビのチャンネル争いが勃発し、テレビが聞こえないくらい騒がしくなったり、深夜2時にコーヒーを飲みながら訪れたり……。日々みんなの暮らしが紡がれていくのです。

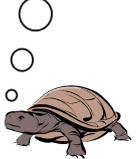
その時間と場所と空気を共有しているということ、が、何より、私を幸せな気持ちにさせてくれるのです。

「管理者」になるということとは、私の細やかな幸せを奪い去るということではないのか。

さらに燻びっている

今日この頃です。

(井上)



すみませえん。井上ですが……。は、はいっ。

仕事は楽しく、オキシトシン！無理せず、ほど良く頑張ろう。

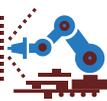
おおきなおなか

「私ね、この頃は、のどかの勤務が無いから、和子さん、もしかしたら私が産休に入ったと思っているのかしらね。足腰がだいぶん弱ってきた和子さんのトイシ誘導の時にね、私の大きなお腹をやさしく撫でてくれるの。それはとてもやさしいまなざしで。そ

して、うんうんってうなずくの。まるで（大丈夫だよ）って言ってるようなの」

「……」  
「こんどはスッキリしたお腹で和子さんに会いたいなあ」

「……」  
「私のお腹？ それは長年貯め込んだ脂肪ってものですが。なにか？」 (S・N)



気合を入れて「カッシン！」



勝手の家の金子さん。カラオケが好きで良く自分の部屋で歌っています。好きな曲の中に仮面ライダー、宇宙戦艦ヤマトなどの特撮ヒーローや、アニメソングがあり、そんなときはビシッとポーズを決めたりと、気合が入っています。

「カッシン！」



この言葉の意味は雰囲気ですそれとなく感じるのが「発進！」や「変身！」

そのときの金子さんは、実に自然でいい顔をしています。疲れも、いやなこともお、イエー、

♪「ぶーきとびせえーッ」

さあ、今日もがんばって「カッシン！」



(倉田)

# 光陽

『じやり・ほっと』から、はじめの1歩

『じやり・ほっと』……

『じやり・ハット』はよく聞けよ……。

『じやり・ほっと』って……な……

日曜出勤の車の中、自分の耳に飛び込んできたこの言葉。

NHKラジオ第一「日曜あさいちばん」の日曜「ラム」というコーナーで、村田幸子さんという福祉ジャーナリストが紹介していたものです。

突発的な事象やミスに「じやり」としたり、ハットとしたりしたこと、そういう事例を集め、重大な災害や事故を予防しようという取り組みが『じやり・ハット』。事故の防止に重点が置かれ、ともすればマイナス部分に目を向けざるを得ない『じやり・ハット』だけでなく、職員と入所者の間にあった、思わず「じやり」とした出来事や、「ほっと」心が温まった瞬間、『じやり・ほっと』を探すことで、利用者の良い部分にも目を向けていくというプラスの発想で施設生活の楽しさを見つめていくという取り組みだそうなんです。

『じやり・ほっと』、この言葉が一日中頭から離れず、うちの法人、施設でもこんな取り組みができればと、考えさせられました。

と、考えた結果、施設では五月、六月の施設目標を

「利用者様の言葉に耳を傾け、  
『じやり・ほっと』を共有していきましょー！」

として、毎朝、申し送りの後、全体で唱和しています。今年度の、はじめの1歩にしていきたいと思います。

皆さんも『じやり・ほっと』を共有したいと思います。三芳光陽園の朝の「ラム」です。

同じテーブルの千春さんとりんさんが、朝のおかすのことで、なにか話していました。

りんさん『わたしや、好き嫌いがおおくてね〜』

千春さん『好き嫌いがなく、なんでもたべ〜』

うかんび』

りんさん『ところで、これはなんだかね〜』

千春さん『かぼちゃのコンスープ』

りんさん『そうかね』

脇で聞いていて、吹き出していました。

作るの難しそうですね！

でも、これで一日楽しく仕事ができそうです。

(施設長 神谷)

## 「サユリスト」

南房総市の生きがい活動支援通所事業、通称予防型デイ、が三月いっぱいまで打ち切りとなりましたが、利用者の皆さんは、介護認定を申請され、通所事業所に通ってきてくれています。

通所事業相談員の小百合さん。

通所事業の利用率のアップにもつながり、ほっと胸をなでおろしていますが、このころ、利用日以外にも電話をかけてくる方や、わざわざ庭の花を切って送迎の車両を待っていてくれる方がいるようで、私はこの方々を勝手に『サユリスト』と呼んでいきます。

この調子で『サユリスト』が増え続け、通所介護事業のフロアが、毎日いっぱいになることを夢見ています。



※写真 は相談員の小百合さんとは無関係です。  
念のため。



# 学園新聞

第100号

## 「新施設長より」

皆さん、こんにちは。初めましての方は初めまして。今年四月より湊ひかり学園の施設長になりました小宮順一郎と申します。

私は薄光会に就職してから二〇年程、三芳光陽園で高齢者介護に携わっていました。湊ひかり学園へとやってきたのは、まだ二年前の事です。そのため施設長になった身ではありませんが、障害者福祉について、まだまだわからないことがたくさんあります。福祉制度改正や新会計の導入等が重なる大変な時期に施設長の役を任せられ、責任の重さに未だ戸惑いを感じていますが、前施設長の協力の下、職員一丸となって安心・安全なサービスの提供に努めています。そして、前施設長の施設運営方針を継続することも、保護者の方と協力して利用者の皆さんにより良い支援を提供できるように、日々精進しています。そのため一層のご指導・ご協力・ご鞭撻を宜しくお願いします。



(小宮)

## 「缶潰し、始めました！」

などと言いつつ、缶潰しを始めて半年近く経ってしまっていますが。

缶潰しの始まりは、学園の活動の一つであるクリンボランティアでした。主に道端のゴミ拾いに重きを置いた活動で、散歩がてら道路を綺麗にし、ましようというものです。集めた「ゴミ」を分別してみると、なんとも空き缶の多いこと！何か利用できないかと、時の施設長は夜も寝ないで風寝するほど考えて、活動に缶潰しなどを行う事を提案してくださいました。

半年の間に缶の潰し方も皆さんだいぶ上達しています。まさのりさんは「缶潰しの匠」と言われる位の上達ぶり。



空き缶が多い日はハンマー片手に大活躍します。なおやさんは特に缶潰しが大好きで、缶潰しの日は朝から上機嫌で「ん〜今日は缶潰しやるんですね〜」ととぼけた口調ですが、鼻歌混じりに活動の始まりを今か今かと待っています。



換気扇の分解中っ！  
缶潰し以外も色々やっています！

普段は現場監督を自任するふみおさんも缶潰しの時は頑張っています。「ふー、よっこいせ」と地面に腰を下ろしてのスタイルで、一つ潰すごとに少し休憩が入りますが、楽しんで参加しています。鉄くずの山が出来上がると、職員Mの出番です。くず山を軽トラに乗せて、リサイクル業者に買い取ってもらいます。

皆さんの作業の様子を見て施設長は「お金が貯まったら利用者の皆さんに還元しないと」と宣言しています。

それまで皆さん楽しみに待っていてくださいね！何をするかはまだ決まっていますが(笑)

(大木)

### 【編集後記】

まだこれを書いている時点では梅雨なのですが皆さん、暑い夏がやってきましたね！（当事者です）

近年、夏ばかりで秋が少なくなってきた気がします。それは温暖化の影響との噂。暑い夏が体の負担になる私にとって、温暖化は正に死活問題です。

なので皆さん、これを機に「エコ」活動をしませんか？

(大木)